

令和4年度 明保小学校 学校評価書

1 教育目標（目指す児童像含む）

心身ともに健康でたくましく、確かな学力と豊かな人間性をもち、ともに支え合いながら変化する社会を主体的に生き抜く児童の育成

- ・健康でたくましい子
- ・進んで考え、最後までやりぬく子
- ・思いやりがあり、誰とでも仲良くする子
- ・ふるさとの人や自然を大切にする子

《合い言葉：元気・やる気・勇気・思いやり》

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

- (1) 人間尊重を基盤として、児童・保護者・地域との信頼関係を築く学校づくり
- (2) 教職員としての使命感とチーム力を高め、創意・工夫を生かす学校づくり
- (3) 知・徳・体の調和のとれた発達と協働する力を育む学校づくり
- (4) 学校・家庭・地域の教育力を生かし合う地域とともにある学校づくり
- (5) 安全管理や危機管理への徹底を図り、安心して生活できる学校づくり

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) ○確かな学力を育成するために、基本的な知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等を育む学習指導の充実に努める。
- (2) ○豊かな人間性を育むために「宮っ子心の教育」を推進し、認め励ます教育や多様な体験活動の充実に図る。
- (3) ○健康で安全な生活を送る力を育むために、体力向上や保健教育、食育教育、安全教育に関する指導の充実に図る。
- (4) 地域や社会の一員として、主体的・協働的な課題解決力や社会への参画力の向上を図るとともに、情報化社会で生きる資質・能力の育成を図る。
- (5) 多様な児童への理解と教育的ニーズへの適切な対応を図るために、児童指導や特別支援教育の充実に図る。
- (6) 信頼される教職員として資質・能力の向上を図るとともに、働き方改革を通して業務の効率化を図り、学校としてのチーム力を高める。
- (7) 地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開するとともに、地域協議会と連携し、学校経営の改善に努める。
- (8) 安全で安心して学校生活を送ることができるように、安全管理体制や危機管理体制を確立し、事故防止に努める。

【宮の原地域学校園教育ビジョン】

心豊かで輝く子どもの育成 ～ほめて伸ばす（自己肯定感を高める）～

【重点課題】

- ★基礎的・基本的な学力を身に付けさせる。（自ら学ぶ児童・生徒の育成）【学力向上部会】
- ★思いやりを高め規範意識の向上を図る。【学校生活適応支援部会】
- ★継続した筋力向上をめざし、健康で安全な生活を営ませる。【健康・体力・食育促進部会】
- ★小中および地域の交流促進を目指し、情報共有化を図る。【交流連携促進部会】
- ★学校事務の効率化・平準化を図り、学校づくりを支援する。【地域学校園事務室部会】

4 教育課程編成の方針

- ・創立149年の歴史と伝統を踏まえ、学校・地域・児童の実態を適切に把握し、特色ある教育課程を編成する。
- ・全職員協力の下、学校経営計画に示された具体策や特色ある学校づくりに関する取組のために必要な教育の内容等を教科横断的な視点で組み立てていく。
- ・学校教育活動全体を通じた組織的なPDCAサイクルの活性化により教育課程の実施状況を評価し、必要な人的・物的な体制を確保するとともにその改善を図っていく。
- ・教育活動実施時数においては、宇都宮市小中一貫カリキュラムを基準として編成し、1年生は安全上2年生と同様に、予備時数は基礎的・基本的内容の徹底(国・算)を中心に計画的に運用する。

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学校運営】

○信頼される教職員集団を築き、地域とともに主体的・協働的な学びを推進する教育活動の実施

【学習指導】

○自己を見つめ、豊かな心でよりよく生きる児童の育成

【児童生徒指導】

○基本的な生活習慣の確立と自他を尊重する態度の育成 ～自己肯定感を高め、「当たり前」を重視した実践～

【健康(体力・保健・食・安全)】

○健康の保持増進や体力づくりに励み、たくましく生きる児童の育成

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
目 指 す 児 童 の 姿	A 1 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 児童は、授業中、話をしっかりと聞いたり、発表したりするなど、進んで学習に取り組んでいる。 <児童アンケート90%>	・互いの思いや考えを伝え合う場を授業に意図的、効果的に設定し、言語活動の充実を図り、学び合い、高め合う授業の工夫改善を推進する。 ・児童が発言したり、考えを友達と伝え合ったり学び合ったりする活動を計画的に学習活動に取り入れる。 ・授業のねらいを明確にして児童に示すとともに、考える時間を確保したり授業形態を工夫したりして、児童が積極的に授業に取り組めるよう支援する。 ・授業のめあてを踏まえ、分かったことやできるようになったことなどを実感できるような振り返り行う。		
	A 2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。 <児童アンケート90%>	・道徳の時間を核として、教材や物語の人物の行動や心情から思いやりの心の大切さを感じたり考えたりする機会を増やす。 ・日常生活の中で、児童の親切な行動を称賛したり、紹介したりしていく。 ・エンカウンターやソーシャルスキルトレーニングの手法を取り入れ、仲間意識を高める。 ・異学年や縦割り班による活動を充実させ、互いを認め、大切にすることを育てる。 ・思いやりと感謝についての生活目標を設定する回数を増やし、児童への意識を高めていく。		

A 3 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 児童は、きまりやマナーを守って、生活している <児童アンケート８５％>	・生活目標を設定し、目標の掲示や放送による呼びかけを実施するとともに、児童自身が学校生活を振り返る機会をもつことにより、規範意識を高める。 ・「明保小のよい子」に基づいた日常的な指導の充実と生活当番を中心とした全校体制での指導の徹底により、望ましい生活習慣の定着を図る。 ・学習や生活のきまりを定期的に振り返りながら、児童の実態を捉えとともに、学年に応じて重点的に指導する。 ・児童が自己チェックにより達成を味わったり改善を意識したりできる機会を設ける。 ・学校生活の約束を保護者に周知し、理解と協力を得る。	
A 4 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 児童は、時と場に応じたあいさつをしている <保護者アンケート８０％>	・クラスによる「あいさつ運動」を定期的実施し、児童の意識向上を図るとともに、活動の様子を保護者や地域に周知し、運動への参加協力を求め、活動の拡充を図る。 ・交通指導員さんや見守り活動団体の方々に感謝の気持ちを表せるよう指導する。特に登校指導の機会を利用し、地域の方へ進んで挨拶をできるよう指導する。 ・教職員が率先してあいさつし、児童があいさつする機会を増やす。 ・校内あいさつ運動において、クラスでのアイデアを募集し、他のクラスにも広めていく。	
A 5 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 私は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 <児童アンケート８５％>	・学習や活動において、目標を明確にし、ゴールを意識させることで、児童が見通しをもって努力し続けることができるようにする。 ・学年のめあてや学期のめあてを明確にして掲示したり、長期休業前の振り返りカードで振り返ったりする活動を通して、粘り強く取り組めるようにする。 ・学び合う場や協力し合う場を意図的に設定し、共に高め合い、励まし合いながら取り組むことができるようにする。	

A 6 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 <児童アンケート90%>	・食育だよりや保健だよりの定期的な発行や「お弁当の日」の実施などにより、家庭で食や健康に関する話合いの機会をもてるよう保護者に働き掛ける。 ・授業中や休み時間、登下校時など、日常生活場面において、機会をとらえて健康で安全な行動ができるよう全職員で指導する。 ・避難訓練や交通安全教室など、交通や災害に対する安全教育を強化するとともに、「明保小のよい子」を活用して日常生活の中の危険について学年に応じて丁寧に指導する。 ・養護教諭や学校栄養職員が保健指導や食育指導に積極的に関わったりすることにより、健康について身近に考える機会を増やす。		
A 7 児童は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。 【数値指標】 私は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 <児童アンケート85%>	・社会や地域の人々の役立つことの大切さを理解し、社会に貢献しようとする態度を育てる。 ・生活科や総合で、社会との関わりについて学習したことを実際の生活に生かそうとする態度を育てる。 ・道徳科や学級活動等を通して、自他の良さが認められる場面を設定し、児童の自己肯定感や自己有用感を高める。 ・学問、スポーツ、芸術など様々な分野で活躍している人の生き方を紹介し、夢や目標に向かって努力する大切さなどについて考える機会を設ける。	B	
A 8 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 児童は、外国語活動の授業やALTとの交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている。 <児童アンケート90%>	・ALTと連携し、授業の充実を図りながら、様々なコミュニケーションの方法を取り入れていく。 ・自分の思いや考えを伝え合う場を授業に意図的、効果的に設定し、外国語活動・外国語科の充実を図る。 ・英語を使っての学習活動を通し、伝え合う楽しさや喜びを十分味わわせ、コミュニケーション力や書く力の向上を図る。		

	A 9 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 私は、宇都宮の良さを知っている。 <児童アンケート８５％>	・社会科・総合的な学習の時間、道徳などにおいて、宇都宮や地域の良さについて学習する機会を意図的に設定し、授業の充実を図る。 ・宇都宮市のイベントや行事などのお知らせを配付する際には、宇都宮の良さを知らせるようにする。		
	A 10 児童は、ＩＣＴ機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 児童は、パソコンや図書等を学習に活用している。 <児童アンケート８５％>	・調べたりまとめたりする学習活動において、タブレット端末や図書等を効果的に活用し、多角的な学習の充実を図る。 ・プログラミング教育や日常的なタブレット端末の活用において、児童に学習意欲を高めていく。 ・教職員が ICT 機器や図書資料を授業の中で、使い分け効果的に使用することで、学習効果を高めていく。		
	A 11 児童は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。 【数値指標】 児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。 <地域アンケート９０％>	・新型コロナウイルス感染防止対策を十分とりながら高齢者との「ふれあい学習」、「感謝の集い」等を実施し、高齢者を敬う気持ちを高めていけるようにする。 ・地域の方にしていただいていることを道徳や感謝の集いにおいて取り上げ、集会や手紙等で、感謝の気持ちを表現できるようにする。		
	A 12 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 児童は、環境問題や防災等の「持続可能な社会」について、関心をもっている。 <児童アンケート８５％>	・生活科や理科・社会科・総合的な学習の時間などにおいて、環境問題や防災等の「持続可能な社会」について、意図的に取り上げ、正しい知識と判断力を身に付けさせる。 ・様々な教科で「持続可能な社会」について学ぶ場を計画的に位置付け、主体的な学びを支援していく。		
目指す学校	A 13 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童等の実態に応じて、適切な支援をしている。 <教職員アンケート９０％>	・学級間の情報交換を密にし、広く児童理解に努め、情報を共有しながら、組織的に児童の教育に当たる。 ・ケース会議や朝の打合せ、職員会議において、情報共有を図る。 ・支援の方向性については、その都度協議し、必要に応じて専門機関との連携を図る。		

の 姿	A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる <児童アンケート90%>	・「いじめゼロ集会」等、いじめ防止に向けての児童の主体的な取組を支援する。また、学校だよりや学年だより、ホームページなどを通して、学校の取組を発信していく。 ・「いじめゼロ宣言」を児童一人一人が作成し、学級で話し合うことにより、いじめ防止に向けた児童の意識高揚を図る。 ・各種アンケートの結果やQ-Uの結果を生かしたり道徳の授業を通じていじめの未然防止に努めたりする。 ・スマートフォンや携帯電話の使い方等については、各学級、学年において実態に応じた指導を行う。	
	A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 先生方は、一人一人を大切にし、児童がともに認め励まし合うクラスをつくってくれている。 <児童アンケート90%>	・ケース会議や教育相談の充実を図り、児童一人一人のニーズや悩みを把握し、関係機関との連携を密に行いながら、個に応じた指導を展開する。 ・児童一人一人が存在感をもち、自己実現の喜びを実感できる学級経営を実践する。	
	A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童等の実態に応じて、適切な支援をしている。 <教職員アンケート90%>	・専門機関との情報交換を密にし、広く児童理解に努め、情報を共有しながら、組織的に児童の教育に当たる。 ・特別な支援を必要とする児童や家庭への理解と対応をするための研修を実施する。	
	A17 学校は、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。 【数値指標】 私は、今の学校が好きです。 <児童アンケート85%>	・「ほめて伸ばす」指導を心掛け、児童一人一人が存在感をもち、自己実現の喜びを実感できる学級経営を実践する。 ・学校行事や児童会活動、係活動において児童が主体的に活動できる場を多く設定する。 ・縦割り班活動を効果的に実施し、異学年児童同士の交流機会を充実させる。 ・担任と児童、児童同士の良好な関係を築くため、長い休み時間（明保タイム）を活用し、交流の機会を確保する。	

A18 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 先生方の授業は分りやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる。 <児童アンケート90%>	・分かる授業を展開するため、ねらいの明確化、板書・発問の工夫、ノート指導の充実を図る。 ・各種学習調査の結果を分析し、児童の実態に即した学習指導を行う。 ・視聴覚教材を効果的に活用し、学習内容の理解を深める。 ・高学年の算数において、学習内容に応じてTTや習熟度別学習を効果的に実施するなど、学習形態の工夫を図り、個に応じた指導を行う。 ・学校課題研究や一人一授業の実践を通して、各教員の授業力の向上を図る。	
A19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 <教職員アンケート90%>	・関係教員との連携を深めるため、時間割を調整し、情報共有、意見交換の時間を確保する。 ・校務分掌や学習指導、児童指導等において、OJTを実施していく。 ・個々の役割を行うだけではなく、校務分掌等の垣根を越えて、相互に協力して業務に当たることができた。 ・報告、連絡、相談を迅速に行い、スピード感のある課題対応に心掛ける。	
A20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 <教職員アンケート90%>	・学校図書館司書やALT、かがやきルーム指導員、スクールカウンセラー、学校業務嘱託員、教員業務支援員、ICT支援員等、専門性を有する職員による学習支援、生活支援、環境整備を充実させることにより、教員が児童と向き合う時間の拡充を図る。 ・電子掲示板による連絡や会議資料のデジタル化、オンライン会議等を推進し、業務の効率化を図る。 ・リフレッシュデーを毎月設定し、計画的な業務遂行に努める。	
A21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 学校は、小学校と中学校が連携した「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 <保護者アンケート80%>	・地域学校園での「あいさつ運動」の充実を図る。 ・図書館や食育等、各種学校園だよりの発行や児童生徒指導の情報交換等により、小中学校間の連携を深める。 ・校内における「小中一貫教育研修」を定期的実施し、各部の活動方針や指導内容を共有し、実践につなげる。	

A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。 【数値指標】 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。 <地域アンケート90%>	・地域コーディネーターとの協力体制を整え、地域教材や企業、地域人材、学校支援ボランティアなどの地域の教育力を生かした教育活動を計画的に実施する。 ・地域の歴史や施設調べ、安全マップ作成など、地域を題材とした学習を充実させることで、地域への関心を高める。 ・生活科・社会科・総合的な学習の時間などにおいて、地域の施設や地域人材を活用した学習を積極的に実施する。	
A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。 【数値指標】 私は、地域や企業の方々と一緒に活動することで学習が充実し、楽しい。 <児童アンケート90%>	・高齢者とのふれあい学習や学習ボランティアとの交流をとおり、地域に親しみをもたせる。 ・地域の行事を積極的に児童に紹介したり、地域の話題を学級内で取り上げたりすることで、行事参加へ向け児童の意欲を高める。 ・地域や企業等と連携・協力して行った教育活動を保護者・地域にも積極的に情報発信していく。	
A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 <保護者アンケート90%>	・毎月の安全点検を十分に行い、児童の安全な生活のため、補修、修繕を速やかに行う。 ・日頃から教職員で、学校環境に目を配り、改善を図っていく。 ・各種学校の行事を実施する際には、来校された方々の安全にも配慮するなど、適切な環境づくりに努める。 ・多くの方が来校する学校行事では、感染症対策等に重点をおき、安全対策をより強化させていく。	
A25 学校は、学習に必要なＩＣＴ機器や図書等を整えている。 【数値指標】 児童は、パソコンや図書等を学習に活用している。 <児童アンケート90%>	○国語科や理科・社会科・総合的な学習の時間などにおいて、ＩＣＴ機器や図書等を学習に活用する機会を意図的に設定する。 ・調べたり探究したりする活動において、タブレット端末や図書等を効果的に活用したり、図書館司書と連携したりして学習活動の充実を図る。 ・タブレット端末を活用した授業やオンライン家庭学習の整備を充実させる。	

本校の特色・課題等	B 1 教職員は、学校課題に関する研究に主体的に取り組んでいる。 【数値指標】 教職員は、主体的に授業研究に取り組み、指導の工夫改善に努めている。 ＜教職員アンケート90%＞	・学校課題に基づいて、研究のねらいを明確にしながら協働的に研究を進める。 ・一人一授業を公開し、児童の学びの姿を参観し合い、指導法について意見を交わすことによって授業改善に努める。		
	B 2 学校は、校内研修やOJTによる実践的な学びを推進し、指導力の向上につなげている。 【数値指標】 学校は、校内研修やOJTによる実践的な学びを推進し、指導力の向上につなげている。 ＜教職員アンケート90%＞	・計画的に校内研修を行い、個々の研修の目的を明確にして、学びを充実させる。 ・学習指導、児童指導、校務分掌等におけるOJTを実施し、指導や業務の共有や持続性を図る。		
	B 3 家庭学習の習慣化を図る。 【数値指標】 児童は、宿題や家庭学習を忘れずにやっている。 ＜児童アンケート85%＞	・「家庭学習の進め方」を活用し、発達段階に応じた家庭学習の内容と方法を具体的に指導する。 ・「家庭学習強化週間」を設定し、家庭学習の状況を振り返らせ、認め励ますことで学習意欲を高める。また、保護者の協力を得ながら、家庭での学習習慣の定着を図っていく。		

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

7 学校関係者評価

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。